

お財布を落としてもたいてい戻ってくる。日本の治安のよさを示す定番の話だが、では、よその国ではどうなのか。

今月、米サイエンス誌に米国とスイスの国際チームが公表した世界の「正直さ」調査が興味深い。チームが「意外だった」という結果の概略はこうだ。



## 落とされたお財布は戻る？

do-ki

### 記 士

青野 由利

名刺やカギも入れ、世界40カ国355都市で、銀行、劇場、博物館などのカウンターに持って行き、「そこに落ちてました」と置いていく。合計で1万7303財布。

もしかして少額だから？ ところで3カ国で金額を増やしてみると返却率はさらに上がった。周囲の目や監視カメラの有無も無関係。

最近の日本の政策は経済的利益ばかりを重視しているが、人間の心理や行動原理を見誤っているのでは？ということだ。

「そこに落ちてました」と置いていく。合計で1万7303財布。だが問題はそこではない。研究チームは当初、返却率は「お金なし」より「あり」の方が低いと予想していた。だが結果は逆。40カ

とすると、考えられるのは持ち主の不便さを気にかける「利他行為」や、返さないと自分が盗んだように感じる「心理的負担」だ。「カギなし」を試すと返却率が下がったので「利他行為」の影響は確かにある。さらに質問用紙による調査では、「お金なし」より「あり」の方が「返さない」と盗ん

るところでこの調査には日本が含まれていない。研究メンバーにたずねると理由があった。「日本にも行ったのですが、調査がうまくいかないことに気づきました。交

その結果、持ち主に連絡が来た「返却率」は国平均で14.76%と開きがあった。高かったのはスイス、北欧諸国、オランダなど。低

「あり」の方が「返さない」と盗ん

番がそこら中であって、人々は財布の持ち主に連絡するより交番に届けるので」（専門編集委員）

返却率が高かったのだ。

かった上で頭をよぎったことがあ

（専門編集委員）